

はじめに

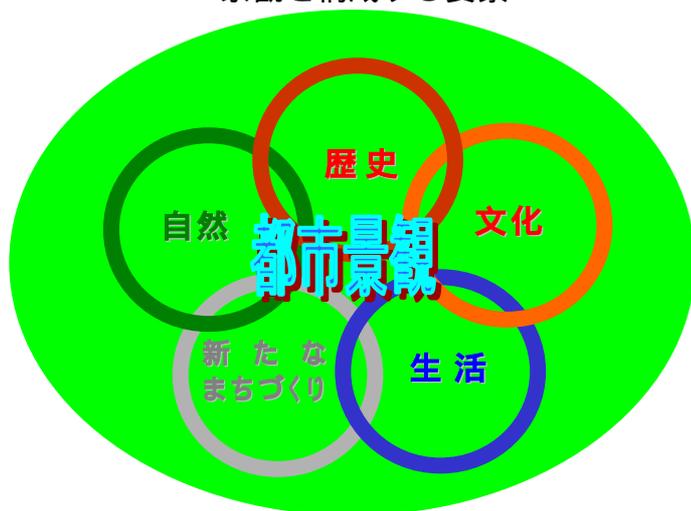
1. 都市の景観

「景観」とは、眺められる対象を示す「景」と、それらを眺める人の感覚を表す「観」によって成り立っている。そして、景観は、地域で生活する人や、訪れる人の価値観によって創り上げられるものである。

景観を構成する要素は、地域の歴史的文脈を継承する「歴史の要素」、地域の個性と文化を育む「文化の要素」、新しい都市の魅力を創出する「新たなまちづくりの要素」、生活感あふれる街並みと環境を保全する「生活の要素」、固有の自然条件を尊重する「自然の要素」の5つの要素にもとづいている。

したがって、良好な景観とは、建築物や自然などの視覚的にとらえられる美しさとともに、都市空間と人間の関わりから生まれる快適さ、精神的充足感、安全性などの総合的価値といえることができる。

景観を構成する要素



景観を構成する要素

歴史の要素

寺社・大名屋敷・建築物
風土様式・地名

文化の要素

地域性・伝統・国際性
メディア・ファッション

自然の要素

地形・みどり・水・斜面
坂・眺望ウォーターフロント

生活の要素

住宅・住環境・暮らし
親しみやすさ・にぎわい
ヒューマンスケール

新たなまちづくりの要素

ビル街・界限・まちかど
個性

II. しながわ景観ガイドプラン策定の背景と目的

1. 都市景観に関する現状

品川区は旧東街道の最初の宿場という歴史的な背景や東京湾に面しているという地形的な条件など、魅力ある景観資源を数多くもっている。由緒ある寺社の数々を残している地区、市街地整備により近代化が進んだ地区、水辺やみどりなど多くの自然環境が保全されている地区、住工商が混在し、庶民的で活気あふれる地区など、実に多彩な顔を見ることができる。

一方、日常的な空間をみると、空を覆う電線類、林立する捨て看板、駅前に放置された自転車、公共空間のごみなど、好ましくない景観が見られる。

2. 都市景観に関する課題

品川区におけるこれからのまちづくりは、利便性の追求や機能性に優れているとともに、地域の特性と個性を活かし、快適でうるおいのある区民にとって愛着の感じられるまちづくりを進めていくことが重要である。

3. ガイドプラン策定の目的

品川区における地域の個性や文化的な特色に根ざした魅力ある街並みをこれまで以上につくっていくために、品川区の基本となる指針、あわせて区民や事業者の手引きとして、「しながわ景観ガイドプラン」を策定する。

これにより、品川区の基本的な指針として、良好な景観形成に資する公共施設の整備や道路などの公共空間の整備、電線類地中化などのハード施策と屋外広告物や放置自転車対策、良質な地域景観の保全、失われつつある特長的な地域景観の再生などのソフト施策を総合的に実施していく。

また、区民や事業者が、地域における景観に配慮した自主的なまちのルールづくりを進める際の手引きとして活用することができる。

III. しながわ景観ガイドプランの位置づけ

本ガイドプランは、品川区における景観行政の総合的な指針であり、「品川区基本構想」に即した「第三次品川区長期基本計画」「品川区市街地整備基本方針」「品川区総合実施計画」との整合を図りつつ策定するものである。

また、景観緑三法（景観法、都市緑地保全法等の一部を改正する法律、景観法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律）にも即したものであり、今後、策定を予定している、品川区全域を対象とした景観法に基づく「景観計画」における良好な景観の形成に関する方針としても位置づけている。

